

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 9月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600039		
法人名	特定非営利活動法人 匠の家		
事業所名	ケアホーム匠		
所在地	広島県安芸高田市吉田町常友486番地 (電話) 0826-47-1013		
自己評価作成日	令和2年8月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3493600039-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年9月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームのスタッフ間で常に大事にしている「利用者第一」の精神をモットーに、家族や利用者との信頼関係を築き上げながら、日々の支援に繋げている。今年は、コロナ禍で家族の面会も思うようにできないが、テレビ電話や動画送信で双方の思いに寄り添えるよう努めている。</p> <p>子育て世代の職員が多く、急な休み等もあるが、お互いに助け合うことで働きやすい職場環境作りができています。そのせいか、近年の離職率は下がり、職員も時にはプライベートな時間を割いて、利用者のために買い物したり、おやつを作ったりと自主的に行動し、生き生きと働いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>開設時からの理念を大切に、「誰でも集えるホーム」「その人らしさを大切に」「明るい笑顔と挨拶」の下、利用者第一の精神を掲げ、利用者の意向や趣向を重視し、温もりのある支援が出来る。併設する小規模多機能と同時開催する運営推進会議には多職種の参加が得られ、活発な意見が交わされ運営に活かされるよう尽力されている。恒例の八朔狩りには利用者、家族、地域住民、ボランティア、職員等3日間に分けて行われ、多数の参加がある。コロナ禍の中で面会や行事が難しい中、動画発信や手紙、テレビ電話等事業所独自の取り組みをしている。ラインワークスを活用し、業務情報、伝達事項が寸時に把握でき、素早い対応が可能になり、日頃の業務の中に活かされている。職員間も意見が言いやすく、コミュニケーションが取れ、風通しの良い、働きやすい、やりがいのある職場作りがなされている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所玄関正面や事務所に理念を掲げ朝礼で唱和する事で、職員の意識も高まり、来所された方には気持ちの良い挨拶を心がけている。	開設当時の理念を職員全員で見直し、理念を作成し直し、職員で周知共有し、より意識を高め実践に活かされている。職員会議の意見を取り入れた、年度ごとに事業計画を立て、評価を振り返る事で次へのステップに繋げている。職員のキャリアアップのスケール作りを考案中である。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一斉掃除に努めて参加している。自治会の回覧板も回してもらい、事業所行事の際には、地域に声掛けするように努めている。今年はコロナの関係で行事は行っていないが、近所の方が野菜を頂いた。	地域的に交流が少ない中で、自治会に加入し、回覧板や一斉清掃に参加している。10年以上続く八朔狩りには利用者・家族・地域住民など多数の参加があり、参加出来なかった住民の方には、おすそ分けする等喜ばれている。コロナ禍の為行事、ボランティア等は控えているがリモートの法話会が開催された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	去年のことになるが、福祉科の高校生が見学に来て認知症についての勉強をされた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナで運営推進会議はできていないが、委員の皆様には資料を郵送し意見があれば返信していただいている。	併設の小規模と合同で開催されている。13名で構成され行政職員、地域代表、民生委員、家族、職員等の参加がある。毎回スライドで日頃の様子や利用者状況、活動報告等行われている。活発な意見が交わされ貴重な意見が運営に活かされている。コロナ禍で開催が出来ないが意見が頂けるよう資料を郵送している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者は運営推進会議には毎回出席いただいている。事務手続きの際には、窓口へ行きコミュニケーションをとるように心がけている。また大雨の時には市から安否確認をこまめにいただいている。	運営推進会議に行政担当職員の参加もあり、事業所報告や意見を頂いている。市の窓口に出向いたり、電話で相談する等、日頃から関係性は密にしている。認知症リーダー研修講師に要請があれば参加している。	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>大腿部骨折術後、せん妄や転倒リスク高い方がおられたが家族に拘束はしないという方針を伝え納得していただいた上で安全ベルトも使用せず、立ち上がりの度に声かけや散歩等で落ち着いていただいている。</p>	<p>運営推進会議開催時に毎回議題に揚げ、リスクマネジメントについて話し合いを設けている。職員も内外研修や職員会議の中で、身体拘束マニュアルに基づき、事例をあげ対策案を考え、プランに盛り込む等して見守り、声掛けを重視、職員間で共有し、身体拘束をしないケアに努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>不適切なケアが虐待につながるという内部研修を行った。また入浴や着替えの際に、身体に変化（アザ等）がないか注意している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>主に管理者やチーフを通して、成年後見制度等必要と思われる利用者に関しては、早めに話をするように心がけている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入所時には十分な説明を行い、理解・納得された上で契約していただいている。改定等の際には、その都度文書と口頭にて説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時等に意見や相談をうけた際には管理職に報告し、反映させるようにしている。運営推進会議でも意見・要望は聞いている。</p>	<p>面会時や電話、毎月の「匠だより」で日常の様子、行事報告や担当制により要望や意見が聴きやすくなり、家族との信頼関係が構築されている。出た意見は管理職に報告され、反映に繋がるよう取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議やグループホーム会議では、皆が平等に意見が言えるよう1人ずつ発言してもらうようにしている。	定期会議や日頃から職員間で話し合う機会があり、話しやすい風通しの良い関係性が築けている。先輩職員の子育て時代の意見が反映される等、子育て最中の職員に働きやすい職場環境作りがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	子育て世代の職員が多いため、勤務時間や日数を融通したり、急な休みには職員同士協力し合っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人には教育係をつけ、マンツーマンでOJTによる指導し、終業後には振り返りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホームへ見学へ行き、人材確保に関する情報交換を行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面会で少しでも信頼関係を築き、不安をなく入所していただくようにしている。入所されてからはご本人にできるだけ寄り添い要望など傾聴し、安心しいただけるケアプランを立てている。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている。</p>	<p>サービス開始時には勿論ご家族の要望等お聞きするが、最初から全ては聞けないし話されないので、面会時や電話等でお話しすることで徐々に信頼関係を築いていくようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用開始時のご本人やご家族の要望に対し当面の暫定ケアプランを立て、状況を見ながらプランの変更をおこなう。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者の出来る事を見極め、ケアプランに組み込むことで、職員が同じ対応できるようにしている。また、匠は施設感をなるべくなくすため制服は作らず、家庭的な雰囲気大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>受診対応等出来る事は極力お願いし、面会時は職員も一緒に話をしたりして、できるだけご家族も巻き込んで共に利用者を支援している。最近ではコロナ禍で面会がままならないため、TV電話や動画送信などで家族が安心できるように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人の希望でお墓参りに同行したり、昔やっていた農作業ができるような環境を作っている。</p>	<p>利用者の生活歴、アセスメントや日頃の会話の中から趣味等汲み取り、行きつけの美容院、墓参り、畑仕事、自宅での誕生日会、知人の訪問など馴染みの人や場所との関係が継続出来る支援がなされている。また、昔、頑張ってきた農作業の野菜作りを仕事の延長と考え、その報酬で買物等に役立っている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の折り合いが悪く同じユニットで生活するのが困難と察し、ユニットの変更をした。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後の利用者のご家族に運営推進会議の委員として残って頂き助言を頂いている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員サイドのペースを押し付けず、入浴の際は本人の意向を聞き日にちを変更したり、男性職員を拒否される方には女性職員で対応している。	生活歴や日常のさりげない会話や仕草、表情等ふれあいを通じて把握記載し、職員間で共有、第一に利用者本位に考え、一人ひとりの生活リズムに合わせた支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当職員が情報提供を見たり、本人やご家族と話すことで生活歴等を把握し、ケアプランに反映させる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	1人ひとりの体力等考慮し出来る事をしていただいたり、休養をとったりしている。状態の変化があれば申し送りやLINEワークス等で職員全員が情報を共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のグループホーム会議で、個々のカンファレンスをおこない、ケース担当を中心に3か月に1度プランのモニタリング見直しをしている。またご家族の面会時にはできるだけ要望や意見を聞くようにしている。</p>	<p>アセスメントや家族の意向を踏まえ、個々にカンファレンスを行い、毎日の記録の中にプランに関するチェック項目があり、ケース担当が中心となり3ヶ月に1回モニタリングで見直しを行っている。専門職からの意見やアイデアが反映された、より現状に即した介護計画作成に取り組んでいる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録の中に、介護計画に関するチェック欄がある。合わせてモニタリングも行えるようになっており、次の計画につなげている。 新しい情報や注意点等については、LINEワークス等で速やかに共有ができるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族との話し合いを大切にし、その時々状況などには臨機応変に対応できるようにしている。 例) 看取り時の家族の宿泊や居場所作り 家族の居室での宿泊 外出、通院のための事業所車両の貸出</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍で初めての試みとして、リモート法話会を行った。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>できるかぎり入居前のかかりつけ医に受診しており、往診に来て頂ける開業医もあるので助けられているが、契約上は基本として家族送迎となっているが、遠方等で事業所が行うケースが多く、今後の課題となっている。 また、協力病院吉田総合病院がかかりつけになっているケースでは、担当医の転勤があり、困ることが多く開業医の先生に代わって頂くケースもある。</p>	<p>入居時本人・家族にかかりつけ医の希望を聞いている。協力医療機関もあるが、入居前の開業医を希望される方も多く、開業医の往診もある。受診は基本家族対応であるが、事業所が同行する等、柔軟な対応策がなされている。受診後も家族と情報共有している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護とは情報の共有に努め、利用者に何かあればすぐに電話連絡が取れる体制となっている。昨年末胃瘻造設された利用者には、小規模看護師やパート看護師が対応し、補えない時にはご主人に協力して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会はできないが、家族や病棟看護師と情報を共有し、認知症が進行しないためにも早期退院を受け入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時の重要事項の説明の中で重度化に向けた方針等の説明も合わせて行っている。看取りを迎える場合には早めに家族とのカンファレンスを行い、意思の確認と今後の方針等を確認している。それにより主治医を交えたカンファレンスを行っている。	入居時、本人・家族に「重度化した場合の対応に係る指針」について説明している。看取りを希望される方も多い。重度化した場合早い段階から確認をし、主治医と共に方向性を話し合い、チームで寄り添う支援に取り組んでいる。実際の経験を通じて振り返りを行い意識を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	なかなか急変等の対応の訓練はできていないが、看護師や先輩職員が対応しているのを見て学び、不安なことや対応方法についての勉強会の課題を皆に聞くようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練は年数回行っている。訓練時には新人職員が対応できるようにして、誰もが1度は経験するようにしている。水害時を想定して、2階への避難方法も実践した。地域との協力体制による、防災面での強化が問題である。	新人職員が研修に参加し対応、消防訓練は防災時迅速に行動出来るよう年2回行われている。水害時を想定し、2階への避難訓練も実施した。備蓄品も完備されている。訓練後や備蓄品を食してみ課題等、意見交換を行っている。今後は地域との協力体制を築けるよう努める考えである。	

自己評価	外部評価	項目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	信頼関係ができると、親しみを込めてその方の話やすい声かけをすることもあるが、自尊心を傷つけないように注意している。	一人ひとりの人格を尊重し、その人にあった丁寧な言葉かけや接遇に留意している。職員間でも同様である。トイレ介助や入浴介助の時も、羞恥心に配慮した声掛けに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なるべく希望に添うように心がけてはいる。思うことを話せない方には、自己決定できるような対応やケアを心がけている。 例) 入浴時の着替え等どちらがいいですかと、本人に選択してもらう。 朝食時、パンかご飯か選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケア内容や日々の生活の中での流れには合わせてもらっているが、拒否や体調がすぐれない時には、日をずらしたり、時間を変えたりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	コロナ禍で美容院にいけなくなったので得意な職員が散髪し喜んでもらった。おしゃれが好きな利用者とは服選びの際、似合ってますね。これいいですね。と楽しい声かけをしたり、入浴後や、洗顔後には化粧水を塗ってもらい、いつまでも美意識を忘れないように心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食事をしていたが最近ではコロナ禍で別々に食べるよう対策している。手作りの日には食事係が畑でできた野菜を使うメニューを考え、おかず分けや配膳、下膳できる方にはしてもらい、介助で食べられる方にはしっかり声かけをしながら楽しく食べてもらえるようにしている。	田舎料理の配食サービスや手作りの日もあり、利用者と一緒に収穫した野菜や誕生日には希望を聞く等お好みのメニューが食卓に並び喜ばれている。食事の摂れない利用者には食事形態を変える等、食事を楽しむ工夫もされている。利用者には副菜の盛り付け、お盆拭き等出来る事を手伝ってもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日の摂取量をチェックし、変化を共有するようにしている。合わせて本人が摂取しやすい形態の物を提供し栄養バランスに注意している。</p> <p>食欲が低下されている方には、食事時間にこだわらず状態が良いときに食べてもらったり、お小遣いから食べやすい物を購入している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>歯科医に助言をもらいながら、個々に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。自分でできる方のほうが見落としがちになるので気をつけたい。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>全介助の方でも一日に一回はトイレに座って頂くようなプランを立て実施したり、失敗やパット等の使用を減らすように本人にあった誘導時間に行っている。</p>	<p>排泄表で個々の状況を把握し、声掛けを行っている。居室にトイレが設置され人格尊重に配慮されている。全介助の方も一日に一回はトイレに座る支援をし、排便は薬に頼らず、乳製品の摂取や量によってはパットの大きさを変える等、利用者には動きやすい、介助者には使いやすい物を用意する等工夫がみられる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日10時にヨーグルトや牛乳を提供し、自然排便を促している。合わせて排泄チェック表により排便のチェックをおこない必要ならば下剤を使用したりサイクル等のリハビリでしっかり動いてもらい、便秘にならないように気をつけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴介助専門の職員を採用し、週に2・3回は入れるようにしている。好きなタイミングに合わせるの難しいことが多いが、希望があれば温タオルで清拭出来るよう準備している。</p>	<p>個浴、ミント浴が設置されている。週2・3回利用者の体調、意向を踏まえ無理強いせず、柔軟な対応を行っている。入浴後は化粧水や保湿ローションを塗布する等入浴を楽しむ支援を実践している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	本人の希望や状態により、休ん でもらう時間は個人差がある。TV を見たい方にはゆっくりする時間 をとったり、眠れない方は一緒 に事務所で過ごしたりと、その 方のペースに合わせて就寝して いただいている。昼寝が必要な 方は夜間不眠につながらないよ う時間を見て休んでいただいで いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	誤薬や飲み忘れ等ない様に、服 薬に関してはセットする人、チ ェックする人、与薬する人と3 段階のチェック体制を取ってい る。日頃の利用者状態を主治 医に伝え減薬にも努め、変更等 あったときはLINEワークスで 周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	役割があることでやりがいを持 てる方にはプランに盛り込み支 援している。利用者同士の助け 合いも大切に、あまり職員が率 先しないで見守るようにしてい る。 月に1回担当職員を決め、合同 でレクリエーションの日を作り 気分転換できるようにしてい る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	外出希望されたときにタイムリ ーにできないこともあるが、抑 制はせず時間をずらしたりして 行っている。 本人の希望があれば可能な限 り、散歩や買い物に出かけてい るが、最近はコロナ禍のためお やつを買い置きし好きなものを 選んでもらうようにしている。	日頃の散歩、買物、個別対応の 墓参り、温泉、敬老会、ドライ ブ等家族の協力を得ながら行 ってきた。また、誕生日にはご 本人の希望に沿い、ドライブに 行き寿司店にも行っていたが コロナ禍では難しくなり、お やつを買い置き選んでもらう 等工夫をし、ご本人の希望が 叶えられる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	自分で持っておきたいと言われ る方には、家族に了解を得て2 ～3千円ほどお渡しし自己管 理してもらっている。利用者が 自分の買いたいものを買に行 かれるときはさいふを渡し、会 計してもらっていた。		

自己評価	外部評価	項 目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望により対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>もう少し整理整頓すべきと感じている。全ての方に居心地良い環境とはなっていないと感じている。</p> <p>花壇で咲いた花を利用者が切って、飾って下さっている。</p> <p>状況に応じてホールの模様替えも行っている。</p>	<p>窓から明るい日差しが差し込み、季節の移り変わりか感じられる。フロアホールはソファやテレビが設置され、テーブルの配置も工夫されている。利用者が思い思いの席で寛げるよう配慮がされていて、季節の生花が飾られる等、なごみの空間づくりがされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>自室で新聞を読んだり、ソファでくつろいだり、思い思いに過ごしておられる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なじみの空間作りで、使い慣れた物を持参頂くようお願いするが、新品を持ってこられる方が多いような気がする。</p> <p>長い時間を自室で過ごされる方は、その方の好みで色々工夫されている。</p>	<p>居室にはベット、エアコン、クローゼット、トイレ・洗面台が設置されている。自宅で使い慣れた品物や好みの物が持ち込まれ、使いやすいようその人らしい居室作りがされている。居室にトイレ、洗面台もあり、プライバシーも守られ安心して過ごせるよう工夫されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下等にはできるだけ物を置かず、歩きやすい環境としている。各居室は本人の状態に合わせて家具の配置を決めている。</p>		

V アウトカム項目(さくら) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所玄関正面や事務所に理念を掲げ朝礼で唱和する事で、職員の意識も高まり、来所された方には気持ちの良い挨拶を心がけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の一斉掃除に努めて参加している。自治会の回覧板も回してもらい、事業所行事の際には、地域に声掛けするように努めている。今年はコロナの関係で行事は行っていないが、近所の方が野菜を頂いた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	去年のことになるが、福祉科の高校生が見学に来て認知症についての勉強をされた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナで運営推進会議はできていないが、委員の皆様には資料を郵送し意見があれば返信していただいている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政担当者は運営推進会議には毎回出席いただいている。事務手続きの際には、窓口へ行きコミュニケーションをとるように心がけている。また大雨の時には市から安否確認をこまめにいただいている。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	立ち上がり転倒を何度も繰り返される利用者に対し、ご家族も骨折・入院入院となることを懸念されていたため、「身体拘束虐待防止委員会」で審議の上、職員が一人で尚且つ目の届かない状況に限り安心ベルト使用許可していただいた。 現在は使用していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	不適切なケアが虐待につながるという内部研修を行った。また入浴や着替えの際に、身体に変化(アザ等)がないか注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	主に管理者やチーフを通して、成年後見制度等必要と思われる利用者に関しては、早めに話をするように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時には十分な説明を行い、理解・納得された上で契約していただいている。 改定等の際には、その都度文書と口頭にて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時等に意見や相談をうけた際には管理職に報告し、反映させるようにしている。 運営推進会議でも意見・要望は聞いている。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議やグループホーム会議では、皆が平等に意見が言えるよう1人ずつ発言してもらうようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	子育て世代の職員が多いため、勤務時間や日数を融通したり、急な休みには職員同士協力し合っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人には教育係をつけ、マンツーマンでOJTによる指導し、終業後には振り返りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホームへ見学へ行き、人材確保に関する情報交換を行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の面会で少しでも信頼関係を築き、不安をなく入所していただくようにしている。入所されてからはご本人にできるだけ寄り添い要望など傾聴し、安心しいただけるケアプランを立てている。		

自己評価	外部評価	項 目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始時には勿論ご家族の要望等お聞きするが、最初から全ては聞けないし話されないので、面会時や電話等でお話しすることで徐々に信頼関係を築いていくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用開始時のご本人やご家族の要望に対し当面の暫定ケアプランを立て、状況を見ながらプランの変更をおこなう。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の出来る事を見極め、ケアプランに組み込むことで、職員が同じ対応できるようにしている。また、匠は施設感をなるべくなくすため制服は作らず、家庭的な雰囲気大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	受診対応等出来る事は極力お願いし、面会時は職員も一緒に話をしたりして、できるだけご家族も巻き込んで共に利用者を支援している。最近ではコロナ禍で面会がままならないため、TV電話や動画送信などで家族が安心できるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔やっていた農作業ができるような環境を作っている。 ご家族に協力していただき、時々自宅に帰られる方もおられたが、今はコロナ禍で難しい。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	利用者同士の折り合いが悪く同じユニットで生活するのが困難と察し、ユニットの変更をした。		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	退去後の利用者のご家族に運営推進会議の委員として残って頂き助言を頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	職員サイドのペースを押し付けず、入浴の際は本人の意向を聞き日にちを変更したり、男性職員を拒否される方には女性職員で対応している。		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	担当職員が情報提供を見たり、本人やご家族と話すことで生活歴等を把握し、ケアプランに反映させる。		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	1人ひとりの体力等考慮し出来る事をしていただいたり、休養をとったりしている。状態の変化があれば申し送りやLINEワークス等で職員全員が情報を共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のグループホーム会議で、個々のカンファレンスをおこない、ケース担当を中心に3か月に1度プランのモニタリング見直しをしている。またご家族の面会時にはできるだけ要望や意見を聞くようにしている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の記録の中に、介護計画に関するチェック欄がある。合わせてモニタリングも行えるようになっており、次の計画につなげている。 新しい情報や注意点等については、LINEワークス等で速やかに共有ができるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>家族との話し合いを大切にし、その時々状況などには臨機応変に対応できるようにしている。 例) 看取り時の家族の宿泊や居場所作り 家族の居室での宿泊 外出、通院のための事業所車両の貸出</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍で初めての試みとして、リモート法話会を行った。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>ご家族にも協力いただきながら、できるかぎり入居前のかかりつけ医に受診している。 現在終末期に近い利用者や、胃瘻造設で月1回居宅療養管理指導を受けておられる方には定期的に往診していただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回の訪問看護とは情報の共有に努め、利用者に何かあればすぐに電話連絡が取れる体制となっている。昨年未胃瘻造設された利用者には、小規模看護師やパート看護師が対応し、補えない時にはご主人に協力して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で面会はできないが、家族や病棟看護師と情報を共有し、認知症が進行しないためにも早期退院を受け入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時の重要事項の説明の中で重度化に向けた方針等の説明も合わせて行っている。 看取りを迎える場合には早めに家族とのカンファレンスを行い、意思の確認と今後の方針等を確認している。それにより主治医を交えたカンファレンスを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	なかなか急変等の対応の訓練はできていないが、看護師や先輩職員が対応しているのを見て学び、不安なことや対応方法についての勉強会の課題を皆に聞くようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防訓練は年数回行っている。訓練時には新人職員が対応するようにして、誰もが1度は経験するようにしている。水害時を想定して、2階への避難方法も実践した。 地域との協力体制による、防災面での強化が問題である。		

自己評価	外部評価	項目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	信頼関係ができると、親しみを込めてその方の話やすい声かけをすることもあがるが、自尊心を傷つけないように注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	なるべく希望に添うように心がけてはいる。思うことを話せない方には、自己決定できるような対応やケアを心がけている。 例) 入浴時の着替え等どちらがいいですかと、本人に選択してもらう。 朝食時、パンかご飯か選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケア内容や日々の生活の中での流れには合わせてもらっているが、拒否や体調がすぐれない時には、日をずらしたり、時間を変えたりして対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	コロナ禍で美容院にいけなくなったので得意な職員が散髪し喜んでもらった。おしゃれが好きな利用者とは服選びの際、似合ってますね。これいいですね。と楽しい声かけをしたり、入浴後や、洗顔後には化粧水を塗ってもらい、いつまでも美意識を忘れないように心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員も一緒に食事をしていたが最近ではコロナ禍で別々に食べるよう対策している。手作りの日には食事係が畑でできた野菜を使うメニューを考え、おかず分けや配膳、下膳できる方にはしてもらい、介助で食べられる方にはしっかり声かけをしながら楽しく食べてもらえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎日の摂取量をチェックし、変化を共有するようにしている。合わせて本人が摂取しやすい形態の物を提供し栄養バランスに注意している。</p> <p>食欲が低下されている方には、食事時間にこだわらず状態が良いときに食べてもらったり、お小遣いから食べやすい物を購入している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>歯科医に助言をもらいながら、個々に合わせた口腔ケアを毎食後行っている。自分でできる方のほうが見落としがちになるので気をつけたい。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>全介助の方でも一日に一回はトイレに座って頂くようなプランを立て実施したり、失敗やパット等の使用を減らすように本人にあった誘導時間に行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎日10時にヨーグルトや牛乳を提供し、自然排便を促している。合わせて排泄チェック表により排便のチェックをおこない必要ならば下剤を使用したりサイクル等のリハビリでしっかり動いてもらい、便秘にならないように気をつけている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴介助専門の職員を採用し、週に2、3回は入れるようにしている。好きなタイミングに合わせるの難しいことが多いが、希望があれば温タオルで清拭出来るよう準備している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	本人の希望や状態により、休ん でもらう時間は個人差がある。TV を見たい方にはゆっくりする時間 をとったり、眠れない方は一緒 に事務所で過ごしたりと、その 方のペースに合わせて就寝して いただいている。昼寝が必要な 方は夜間不眠につながらないよ う時間を見て休んでいただいで いる。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	誤薬や飲み忘れ等ない様に、服 薬に関してはセットする人、チ ェックする人、与薬する人と3 段階のチェック体制を取ってい る。日頃の利用者状態を主治 医に伝え減薬にも努め、変更 等あったときはLINEワークス で周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	役割があることでやりがいを持 てる方にはプランに盛り込み支 援している。利用者同士の助け 合いも大切に、あまり職員が 率先しないで見守るようにし ている。月に1回担当職員を決 め、合同でレクリエーションの 日を作り気分転換できるように している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	外出希望されたときにタイムリ ーにできないこともあるが、抑 制はせず時間をずらしたりして 行っている。本人の希望があ れば可能な限り、散歩や買い 物に出かけているが、最近 はコロナ禍のためおやつを 買い置きし好きなものを選ん でもらうようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	自分で持っておきたいと言わ れる方には、家族に了解を得 て2~3千円ほどお渡しし自 己管理してもらっている。利 用者が自分の買いたいものを 買いに行かれるときはさいふ を渡し、会計してもらって いた。		

自己評価	外部評価	項 目(あやめ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	希望により対応している。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>もう少し整理整頓すべきと感じている。全ての方に居心地良い環境とはなっていないと感じている。</p> <p>花壇で咲いた花を利用者が切って、飾って下さっている。</p> <p>状況に応じてホールの模様替えも行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	自室で新聞を読んだり、ソファでくつろいだり、思い思いに過ごしてもらえる。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>なじみの空間作りで、使い慣れた物を持参頂くようお願いするが、新品を持ってこられる方が多いような気がする。</p> <p>長い時間を自室で過ごされる方は、その方の好みで色々と工夫されている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	廊下等にはできるだけ物を置かず、歩きやすい環境としている。各居室は本人の状態に合わせて家具の配置を決めている。		

V アウトカム項目(あやめ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ケアホーム匠

作成日 令和2年10月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防、水害訓練は行っているが地域の方や消防団・地域連携の方にも協力を呼びかけてみる。	訓練を定期的に行っていることや、介助の必要な方の人数、情報等を共有し災害時の協力体制を作る。	回覧板に訓練の情報を発信する。 消防団に匠の事を知ってもらおう。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。